

工事検査ワンポイントアドバイス
「受検上注意すべき点（R3年度の工事検査事例から）」

工事検査通信 No.73

発行： R4年6月1日

出納局 工事検査課



今回は、昨年度の検査を踏まえて特に注意したい点について教えてください。

はい。幾つかありますが、まずは植生工について気をつけたいことがあります。



植生工のどんなところですか？

初めは「耳芝」です。張芝、筋芝、人工張芝の法肩には、法肩の崩れを防ぐために、耳芝を施工することになっています。（共通仕様書 土木工事編Ⅰ-P326）

豪雨の発生が多くなっているだけに、耳芝で法肩の崩れをしっかり防がないといけません。堤防をはじめ、張芝、筋芝、人工芝を施工する全ての法肩で耳芝を施工しているのか確認が必要です。共通仕様書によりがたい場合は、施工方法について協議が必要です。



「耳芝」は以前にも工事検査通信No.26（H29配信）で取り上げていますね。その他、注意点はありますか？

はい。次に堤防法面の植生工では「菜の花、ホワイトクローバ、クズ等」堤防を弱体化させる種子が混入してはいけません。（共通仕様書 土木工事編Ⅰ-P326）

「ホワイトクローバ」などはミミズが生息し易い土壌を作ります。このミミズを餌にするモグラ、更にはモグラを餌にするキツネなどの動物が堤防に住みついて堤防に穴を掘ってしまうのです。



これも以前の工事検査通信No.27（H29配信）で取り上げていますね。

はい。堤防に使用する植生工の材料承諾で「ホワイトクローバ」などの種子が混入していないか見逃さないよう注意が必要です。



再度注意して確認します。他にはありますか？

はい。堤防の川表には「野芝」を張る張芝が標準です。張芝は、成長した芝「野芝」を芝串で固定し張り付けるため、施工してから短い期間で法面を保護することができます。

これに対して、種子から成長させる植生工は、発芽期間が長いなど、次期出水までに法面を保護する植生に成長しない場合があります。



種子系の法面工は施工性が良いので採用したいところですが、施工箇所の条件をよく理解しないで工法を選定してはいけませんね。その他、植生工以外で注意したい点がありますか？

はい。コンクリートブロック工の水抜き孔です。水抜き孔については、設計図書に定めがない場合は、2%程度の勾配で設置することとなっています（共通仕様書 土木工事編Ⅰ-P217）

水抜き孔は、コンクリートブロック背後の水位を低下させるためにあります。このため水抜きパイプの勾配が十分でないと、水圧でコンクリートブロックが転倒してしまう場合がありますので、水抜きパイプの勾配が十分取れているか確認が必要です。



施工中も注意して確認します。その他、注意点がありますか？

はい。監督員の方は、工事検査を受ける前に「現場」と「完成図書（写真、出来形管理、品質管理など）」を良く確認していただきたいですね。

工事検査課では「不適合防止のためのチェックシート」を作成し、誤りが発生しやすい点をチェックできるようにしていますので、是非活用して下さい。



ありがとうございました。他にもありますか？

その他については、次回にお話します。



※ 「不適合工事防止のためのチェックシート」は、工事検査課のホームページからダウンロードできます。（不適合工事一覧表 参考資料「不適合工事防止のためのチェックシート」）

【登場人物の設定】

○福島県 出納局 工事検査課



：唐井(からい)検査員



：渋井(しぶい)検査員